

# 事業完了報告書

提出日：2023年3月31日

## 1. 事業概要

- (1) 実行団体名：特定非営利活動法人SET  
 (2) 事業名：Change Maker Study Program～地域社会を担ってきた住民と外部の大学生の交流による地域活性化事業～  
 (3) 事業実施期間：2021年6月～2023年3月  
 (4) 資金分配団体名：一般社団法人RCF

## 2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

(1) 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> 完了 / <input type="checkbox"/> 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
(2) 整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。
<input checked="" type="checkbox"/> 全て公開した / <input type="checkbox"/> 一部未公開 / <input type="checkbox"/> 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
(3) 変更があった規程類に関してJANPIAに報告しましたか。
<input type="checkbox"/> 変更があり報告済 / <input type="checkbox"/> 変更があったが未報告 / <input checked="" type="checkbox"/> 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

## 3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

(1) 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(2) 内部通報制度は整備されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。(複数選択可) <input checked="" type="checkbox"/> 内部に窓口を設置 / <input type="checkbox"/> 外部に窓口を設置 / <input type="checkbox"/> JANPIAの窓口を利用

(3) 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(4) 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(5) コンプライアンス責任者を設置していましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(6) ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化に向けて組織再編など根本から見直すよう団体全体で取り組んできました。特に理事の再編を行い、組織外部を含めた4名の理事を新たに迎え、多様な視点から法人の適正運営に務める体制を整備しました。また、外部の専門家によるアドバイスの機会を増やすことで体制の整備に取り組みました。認定NPO法人を見据えて、岩手県庁の認定NPO法人専門員の方に法人運営の実態を確認いただき、運営方法や今後のコンプライアンス強化に向けてご指導いただきました。さらに弊団体理事の紹介で社会保険労務士にガバナンス体制について相談し、ご指摘いただいたことをもとに資金繰り表の見直しや労務管理体制の整備などの強化施策を実施してきました。
(7) 団体の決算書類に対する会計監査はどのように実施しましたか。本事業の最終年度の状況を選択してください。(実施予定の場合を含む)
<input type="checkbox"/> 外部監査 / <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 ※(複数選択可)
→上記で外部監査/内部監査を選択した場合、その実施者/実施時期を記載してください。 会計顧問に税理士 廣崎英子様を招き、年度末から2ヶ月以内の税務申告時に決算書類の作成及び監査を依頼しています。
(8) 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
<input type="checkbox"/> はい / <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

## 4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

(1)シンボルマークの活用状況
<input checked="" type="checkbox"/> 自団体のウェブサイトに表示している / <input checked="" type="checkbox"/> 広報制作物に表示している <input type="checkbox"/> 報告書に表示している / <input type="checkbox"/> イベント実施時に表示している <input type="checkbox"/> その他 →「その他」を選択した場合は記載してください (自由記述):

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	無	
広報制作物等	有	12月のアクション実施時に活動報告に関するチラシを作成し、回覧板にて配布した。
報告書等	有	日本NPO学会第24回研究大会において、「住民との交流プログラムへの参加が若者の意識や心の状態に与える効果について—NPO法人SETによる岩手県3自治体での活動のアンケート調査報告—」として、調査報告書を発表した。

## 5. その他(本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。)

規定類の作成やコンプライアンス強化に取り組む姿勢が組織基盤の強化に繋がりました。一方で本助成を実施する上で、規定に基づいた体制整備や報告業務を行ったことで法人運営コストの増加につながり、本助成の枠を超えた団体としての強化が今後の課題となります。それらを踏まえて事業の実施についてだけでなく、それらを支える運営体制について、管理部を交えてご指導/ご相談の支援がありましたらとても幸いです。

以下に 事業の実績を記入する。

## ●インプットの実績

## (1) 人材(主に活動していたメンバーの人数や役割など)

- 内部:  
理事:6名(事業状況確認、経営アドバイス)、事業マネージャー:2名(事業推進/コーディネーターのマネジメント)、地域人材開発コーディネーター:2名(住民主体の活動の伴走/参加した大学生の地域との関わり創出)、学生リーダー:3名前後(学生チームの統括/1年毎)、学生スタッフ:20名前後(学生チームの運営/1年毎)
- 外部:  
外部アドバイザー3名(コミュニティ、ガバナンス強化、事業開発)経営アドバイス

## (2) 資機材(主要なもの)

- 特になし

## (3) 経費実績 助成金の合計(円)

## ① 契約当初の計画金額

- 17,994,600円

## ② 実際に投入した金額

- 16,512,277円

## (4) 自己資金(円)

## ① 契約当初の自己資金の計画金額

- 7,637,600円

## ② 実際に投入した自己資金の金額と種類

- 909,070

円

## ③ 資金調達で工夫した点

- 事業期間内では、富士通総研との連携とプログラム参加費収入で資金調達を行なった。
  - 富士通総研とは、共助コミュニティ形成に向けての視座を得るため、小友町の高台移転実施地域での活動における学びを共有した。
  - プログラム参加者については、震災復興の文脈から平時におけるまちづくりの文脈へと社会が変化していることを踏まえ、学生ニーズの把握及びアプローチ方法を模索した。
- 事業期間終了後の平事業化に向けて、行政と連携しどのように予算化を行うか等を検討した。結果的に、関係人口創出に繋がる地域の担い手創出事業として連携を行っていくことが決まった。

## ●アウトプットの実績

①アウトプット	②指標	③初期値	④目標値	⑤達成時期	⑥実績値
1度CMSPにより訪れた若者が、継続的に地域に関わる状態	CMSP参加者の内、 ・次期CMSP運営スタッフ割合 ・上記以外で地域で活動する割合	現在、CMSP参加者の3割が次期スタッフ、それ以外の7割は地域との関わりが希薄になる。	CMSP参加者の内、 ・次期プログラムスタッフ4割 ・上記以外で継続的に地域で活動する人が2割いることを目指す。	2022年 4月	<b>CMSP参加者の内、 ・次期CMSP運営スタッフ割合：</b> <2021/4-2022/3>3割 - 全体:49名 - 継続:15名 <2022/4-2023/3>2割 - 全体:11名 - 継続:2名 全体:28%=約3割  ・上記以外の地域で活動する割合： <2021/4-2022/3>0.8割 - 全体:49名 - 継続:4名 <2022/4-2023/3>0割 - 全体:11名 - 継続:0名 全体:0.6割  ※2022年度の継続に関しては現状値。現在学生に対して意向調査中。
①アウトプット	②指標	③初期値	④目標値	⑤達成時期	⑥実績値
地域の中で地域外から来る学生と交流しCMSPで活動してくれる人が地域の中に増える状態	CMSPの活動に関わる地域住民の人数	現状、広田では800人、小友、矢作では0人。(人口は、小友町:1925人、矢作町:1372人 令和3年3月31日時点)	CMSPの活動に関わる地域の人が、プログラム実施地域(現状広田、小友、矢作)の人口の1割=10%を超える。 ※人口は広田町約3000人、小友町約1900人、矢作町約1400人	2022年 10月	広田町: <b>22名(0.7%)</b> 小友町: <b>46名(2.4%)</b> 矢作町: <b>46名(3.3%)</b>
①アウトプット	②指標	③初期値	④目標値	⑤達成時期	⑥実績値
地域内経済循環を生み出すための取り組みが、関係人口(地域外の若者)などと連携しながら生まれ始めている状態。	CMSPを通して生まれる、資金の流れを地域内で循環させる取り組み数	交流が生まれていた広田においては、地域の野菜を購入し資金を巡らせる取り組みが1つ始まっている。	CMSPを通して生まれる、資金の流れを地域内で循環させる取り組み数が、広田で3つ以上生まれている。	2022年 10月	資金の流れを地域内で循環させる取り組み数は <b>0</b>  ※年度末報告書でも触れたが、今年度は資金の流れを産むために関係人口創出に注力した。

●アウトカムの達成度					
①短期アウトカム	②指標	③初期状態	④目標状態	⑤達成時期	⑥実績値
地域コミュニティや地域の課題に対し継続的に関わる関係人口(地域外の若者)が生まれる土台ができる状態	CMSP参加者が参加後に選べる選択肢の数	小友、矢作に関しては継続的に関わりを持つ関係人口(地域外の若者)は希薄である。	CMSP参加者が選べる選択肢の数が、次期運営スタッフ以外で2つ以上ある	2023/03/01	広田町:3つ (漁業、民泊、デンマーク連携事業) 小友町:1つ (民泊) 矢作町:1つ (民泊)  ※広田の漁業に継続的に関わっている学生がいる
①短期アウトカム	②指標	③初期状態	④目標状態	⑤達成時期	⑥実績値
地域のためを思って、主体的に地域内で活動する人が増える状態	CMSP実施期間以外の期間で実施される地域の人の取り組み数	現状、広田では2つ、小友、矢作ではCMSPが未実施のためなし。	CMSP実施期間以外の期間で実施される地域の人の取り組みが各地域(広田、小友、矢作)に1つ以上ある。	2023/03/01	各地域:0個
①短期アウトカム	②指標	③初期状態	④目標状態	⑤達成時期	⑥実績値
地域の持続可能性を高めるための取り組みが実装されて、地域の中でお金が巡る状態	地域の中でお金が巡る取り組みをするために、広田に移住する人数	広田においては、SET内において、担当部署があり。	地域の中でお金が巡る取り組みをするために、広田に移住する大学生が2人以上いる。	2023/03/01	移住者2名  ※2023年4月に移住予定

## 【添付資料】

## 活動の様子がわかる写真 5枚程度

JANPIAの事業報告書やWEBサイト、SNS等で公開可能な写真を5枚程度(1枚2MB以下)ご提出ください。(肖像権・著作権に十分にご注意ください。)

それぞれどんな場面の写真なのか、1枚あたり50字から200字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもってJANPIAでの使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真(使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等)を選んでいただきますようお願いいたします。





▶2022年6月、学生チームのキックオフミーティングを行いました。感染症対策を講じながら、対面でのコミュニケーションや様々な学生定着に向けた施策を実行しました。



▶2022年12月、小友町における地域住民との交流の場の創出に向けたアクションの風景。地域の方と地域コミュニティに関する現状と今後の地域の在り方を対話しました。



▶2022年12月、小友町における地域住民との交流の場の創出に向けたアクションの集合写真。ここ数年、新型コロナウイルスの影響もあり地域の中での交流が制限されていましたが、様々な地域の方の協力もあり、普段交流のない地域同士、多世代での交流が行われました。





▶2022年8月、矢作町でのフィールドワークの一場面。学生の活動を理解してもらうためにチラシを持って各戸訪問。「地域のために」と活動する学生の存在を知ってもらい、共に地域づくりを行う関係構築に向けて地域を巡りました。





▶2022年12月、矢作町での交流の場の創出に向けたアクション「生出カルタ大会」の様子。地域の魅力を50音から始まる句を全て0から考えてカルタにした。地域の方に、生出の魅力を見つけて欲しいという想いを込めて実施。涙を流す住民もいた。